



レポート - その他のレポート -

産学共創の視点から未来の世界を、日本を支える人材育成を考えるー日本学術会議と経団連が学術フォーラムを共催

サイエンスポータル編集部

掲載日：2019年6月25日

国際的なインパクトを与えることができるイノベーションを生み出せる人材育成は今や日本の科学技術政策の最重要課題だ。このため、政府や産業界、大学といったさまざまな場で人材育成の在り方について議論されている。産学官連携が叫ばれて久しいが世界の動向が刻々と変化する中で日本の強みを再確認しながら若手の育成方針を具体的に定めることが急務だ。そうした中で日本学術会議と日本経済団体連合会（経団連）が共催し、文部科学省が後援した学術フォーラムが5月22日、日本学術会議講堂（東京都港区六本木）で開かれた。題して「産学共創の視点から考える人材育成」。

いずれも独創的な活動や大学運営をしている登壇者から自らの体験や信念に基づいた発言が続き、「産」と「学」が未来の世界、日本を支える人材育成のあり方を見据えながら向き合った。



学術フォーラム「産学共創の視点から考える人材育成」の会場の様子（東京都港区六本木の日本学術会議講堂）



学術フォーラム「産学共創の視点から考える人材育成」のチラシの一部（提供・日本学術会議/日本経済団体連合会）

日本学術会議は、山極会長を委員長とする「科学と社会委員会・政府・産業界連携分科会」を設置し、これまで11回分科会と1回シンポジウムを開いている。この日の学術フォーラムは主に講演とパネル討論で構成された。日本学術会議副会長で科学技術振興機構(JST)副理事の渡辺美代子さんの司会でフォーラムが始まった。

「横連携がこれまではうまく機能していなかった」

経団連の五十嵐仁一さんがまず開会のあいさつをした。五十嵐さんはJXリサーチ代表取締役社長で、経団連の未来産業・技術委員会産学官連携推進部会長を務めている。あいさつでは「イノベーションが生まれにくい真の問題は、産業界、大学学術界、そしてベンチャーの横連携が（これまでは）うまく機能していないためだ」などと産業界の立場から率直な感想を述べた。